

キャリアコンサルタント
村本麗子氏



ビジネスマンスクール東京・札幌の首席講師として年150回以上の授業に登壇。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ代表取締役。

キャリアアドバイザーに聞いた!

転職サリセス

人回道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS"

vol.16

好印象を与える面接の対話術。

話し方や聞き方で、人の印象は大きく変わるもの。
今回は限られた面接の時間で面接官に好印象を与えるコミュニケーション術のお話です。

声が小さい、聞き取れないは致命的。

人事担当者へのアンケートで不採用の理由を尋ねたところ、どの方も必ずベスト3に入れるのが「元気がなかった」という回答。「言葉に覇気が感じられない」「語尾が聞き取れない」「ボソボソと声が小さい」などがその詳細です。

声が小さい、聞き取れないというのは、面接では致命的なデメリット。たとえ応募者が高いスキルや才能を持っていても、「自分の言動に自信がない人」「周囲とのコミュニケーションがとれない人」という印象を与えてしまうからです。用意周到で面接に臨んだのに声が原因で不採用：ではやりきれません。面接でのコミュニケーションは「ハキハキと明瞭な声で」が何よりも大切なポイントです。

好印象のツボはミラーリング。

ゆっくり話す、速やかに話す、

面接ではどちらがいいの？よく耳にする質問です。答えを導くキーワードは「ミラーリング」相手に同調すること。面接官がゆっくり話すタイプであればそれに合わせてゆっくりと、逆にテキパキとリズムカルに話す方ならそれに合わせてテンポよく受け答えするのが理想的な対応。人は誰もが自分の思考や会話のペースを持っており、そのペースに乗った対話や返答を心地よく感じるからです。

逆にじっくり話したいのに早口で答えられたり、端的に聴いているのに妙に時間をかけて話されると、面接官は心の中にひっかかりを感じるもの。面接の場では速やかに面接官のペースやテンポをキャッチすることも重要です。

準備に勝る武器はなし。

面接官の会話のリズムに合わせて明朗快活に話す、という極意を身に付けても、肝心の話の

内容がスカスカではせっかくの好印象も台無しに。今回はコミュニケーションのノウハウに的を絞りましたが、志望動機やこれまでの経歴やスキル、自己PRなど、面接で尋ねられそうなことは、すべて事前に頭の中にインプット

しておくのが基本。さらにそれ場の雰囲気に応じてゆっくり伝える、速やかに返答するなどの練習をしておくことも大切です。好印象を与えるコミュニケーションは、しっかり準備、万全な用意があつてこそ、なのです。

